

専攻名	両専攻共通	必修・選択	選択	単位	2	学期	3Q
科目群	産業技術研究科共通科目群	科目名	ビジネスアプリケーション特別演習			教員名	中鉢 欣秀 吉岡 弘隆 永瀬 美穂
		(英文表記)	Advanced Exercises: Business Application				

概要	<p>本講義は平成 24 年度から開始された文科省の「分野・地域を超えた実践的情報教育協働ネットワーク」(enPiT : Education Network for Practical Information Technology) のビジネスアプリケーション分野の学習の一環として、PBL 方式で行われる、学生主導のプロジェクト演習である。</p> <p>リーンスタートアップ手法およびアジャイル開発手法である Scrum を使って、Web アプリケーション分野の新しい製品やサービスの企画立案から、プロトタイプ開発によるアーキテクチャベースラインの確立、インクリメンタルな機能強化開発、運用・保守までを実践する。具体的なテーマとしては、楽天株式会社 of Web アプリケーション開発用の API を利用し、実用レベルの製品・サービスの開発と運用を経験する。分散 PBL では、チーム単位によるアプリケーション開発を協同で行い、ビジネスアプリケーション開発の実践力を修得する。</p> <p>詳細については、別途配布する「enPiT 分散 PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。</p>		
目的・狙い	<p>Scrum を理解し、モダンな Web アプリケーション開発のための基盤を活用して、価値の高いソフトウェア開発をチームワークで行うことを目的とする。受講者はこの PBL を通じて、楽天 API を利用した Web アプリケーションを作成し、成果報告会で発表する。</p> <p>修得できるコンピテンシー:</p> <p>(B1) コミュニケーション力 (レベル4) システム提案・ネゴシエーション・説得、ドキュメンテーション  (B2) 継続的学修と研究の能力 (レベル4) 革新的概念・発想、ニーズ・社会的・マーケット的視点、問題解決  (B3) チーム活動 (レベル4) リーダーシップ・マネジメント、ファシリテーション・調整</p>		
前提知識 (履修条件)	<p>ソフトウェア開発プロジェクトに参画した経験があることが望ましい。チームワークによるソフトウェア開発に対する熱意や、より良いプロジェクトマネジメント手法に対する期待がある人をとくに歓迎する。</p> <p>enPiT プログラムの受講生は「コラボレイティブ開発特論」(集中講義)及び「アジャイル開発手法特論」(集中講義)の受講を必修とする。</p>		
到達目標	上位到達目標		
	「enPiT PBL プロジェクト説明書」を参照。		
到達目標	最低到達目標		
	「enPiT PBL プロジェクト説明書」を参照。		
授業の形態	「enPiT PBL プロジェクト説明書」を参照。		
授業外の学習	<p>原則として土曜 2 限目のコアタイムを含む週 4.5 時間のチーム活動以外に、各自 4.5 時間の時間外作業を 10 週間継続すること。時間外においては、チーム活動のために必要な知識の事前学習や、メンバーに分担された活動中の課題の調査などを行う。</p>		
成績評価	成績評価方法の詳細については、プロジェクトごとに定める「enPiT PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。		
教科書・教材	「enPiT PBL プロジェクト説明書」を参照。		
参考図書	「enPiT PBL プロジェクト説明書」を参照。		
獲得可能なコンピテンシー		獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容
メ タ	コミュニケーション能力	◎	
	継続的学修と研究の能力	◎	
	チーム活動	◎	
コ ア	システム提案・ネゴシエーション・説得	◎	
	ドキュメンテーション	◎	
	革新的概念・発想	◎	
	ニーズ・社会的・マーケット的視点	◎	
	問題解決	◎	
	リーダーシップ・マネジメント	◎	
	ファシリテーション・調整	◎	